東京ガスがHULFTを選んだ理由 ファイル連携 標準化への取組

デジタル技術部 アプリ基盤グループ

高橋 直也

『はじめて』
をカタチに
する会社。

TOKYO GAS GROUP

東京ガス ネット株式会社

アジェンダ

- 会社紹介
- 東京ガスグループの事業を支えるシステム
- HULFTの活用事例
- 活用に至った経緯
- HULFT採用のポイント
- 今後の取り組み
- セゾン情報システムズ社への期待

会社紹介

会社名	東京ガス i ネット株式会社
事業所	浜松町、新宿、幕張
設立	1987年7月1日（昭和62年）
売上高	343億5,500万円（2018年3月期実績）
事業内容	<p>主に東京ガスと東京ガスグループに対するシステムインテグレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITコンサルティング ・システム計画・設計・開発・構築 ・システム維持管理 ・ネットワーク・サーバ構築 ・ネットワーク・サーバ運用保守 ・データ分析・活用 ・先端技術の調査・独自の技術開発 ・ITセキュリティ全般
社員数	725名（2018年4月1日現在） 平均年齢：38.7歳

東京ガスと東京ガスiネットの関係

東京ガスのデジタル化における「モノづくり」を一手に担う

東京ガスグループの事業を支えるシステム

約300システム

東京ガスグループ事業のシステム稼働数

ガス・電気利用者
検針データ

1100万件超のお客様
(東京ガスグループ全体)

ガス小売店
販売データ

ガス工事会社
図面データ

警報契約
(ガス警報器レンタル)

顧客管理

契約管理

ガス契約
(開栓・閉栓)

請求システム
(入金管理)

**多種多様なシステムが
複雑に存在**

工事管理
(図面確認)

設備管理

HULFTの活用事例(検針から請求まで)

HULFT 活用箇所

活用に至った経緯 (1/2)

- ✓ 各システムを個別最適で構築した結果、
各システム間の連携も多く、連携手段が複雑化
→ジョブ管理ツールの導入及び親和性の高い連携手段が必要

活用に至った経緯 (2/2)

- ✓ 従来のFTPやSCPによるファイル転送ではできないことが多い
 - ・ システム間で出力するファイルの文字コードが異なる
 - ・ 頻発する転送エラーの解決に時間がかかる
 - ・ ネットワークの帯域制限ができず、不安定になる

目指すべきシステム間の連携

- ✓ ジョブ管理ツールの管理対象のOSが多岐に渡るので、マルチプラットフォームに対応したファイル連携が必要
- ✓ 従来のファイル転送の課題を解決

東京ガスの事業を支えるシステムの標準化へ

安心・安全を重視したシステム開発や保守を実現するために

システム基盤を標準化

開発基盤
言語を統一
(Java)

ファイル転送基盤
システムの統一

データ連携基盤
システムの選定

HULFTの採用

HULFT採用のポイント

- ✓ メインフレーム、オープン系OSの差異(文字コード変換)を吸収
- ✓ ネットワークの帯域制限ができる
- ✓ ジョブ管理ツール (JP1) とのシームレスな連携ができる
- ✓ OSを意識せずにシステム構築が可能

HULFT 標準化へ

HULFTを使うケースと使わないケースの切り分け、原則はHULFTを利用

現在のHULFTライセンス数 **230本**

今後の取り組み

東京ガスグループのシステム稼働環境にクラウドを取り入れていく

→ 業務システムはシステム間連携が多く、多くのバッチジョブで成り立っている。

システム間連携は欠かせない要素

- ✓ 変わらぬ安定性を提供するため『ファイル連携にHULFT』の考えが簡単には変わることは無い
- ✓ それぞれの連携間でベストプラクティスを出して効率的な利用を行うための検討が必要
- ✓ クラウド活用時代では小粒なデータをリアルタイム連携の重要性が増す

セゾン情報システムズ社への期待

「今を守り、未来を創る」

変わらぬ安定性の提供を期待するとともに
クラウド活用時代における新たな選択肢を
引き続きご提案いただくことを期待しています

ご清聴ありがとうございました